

大山町立学校におけるクマ等出没対策マニュアル

令和 8 年 8 月策定

大山町教育委員会

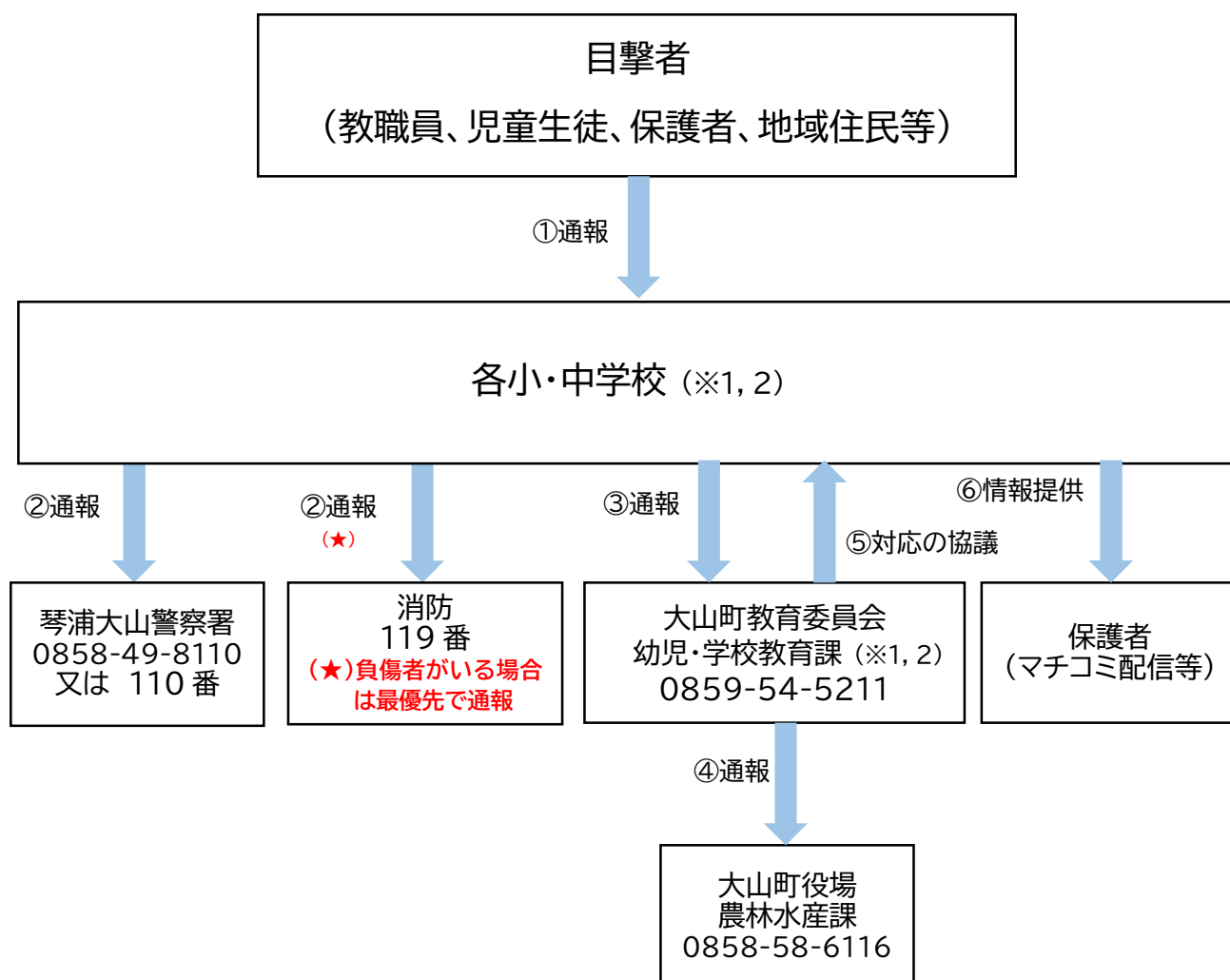
目次

クマ出没時の連絡体制図	1
クマ出没時の対応(詳細)	3
対策の例	5
クマ(ツキノワグマ)の習性	6
クマ(ツキノワグマ)が近くにいるサイン	6

クマ出没対応時の連絡体制図

令和8年8月
大山町教育委員会

1.教職員、児童生徒、保護者、地域住民等がクマを目撃した場合 (学校周辺でクマが出没した場合)

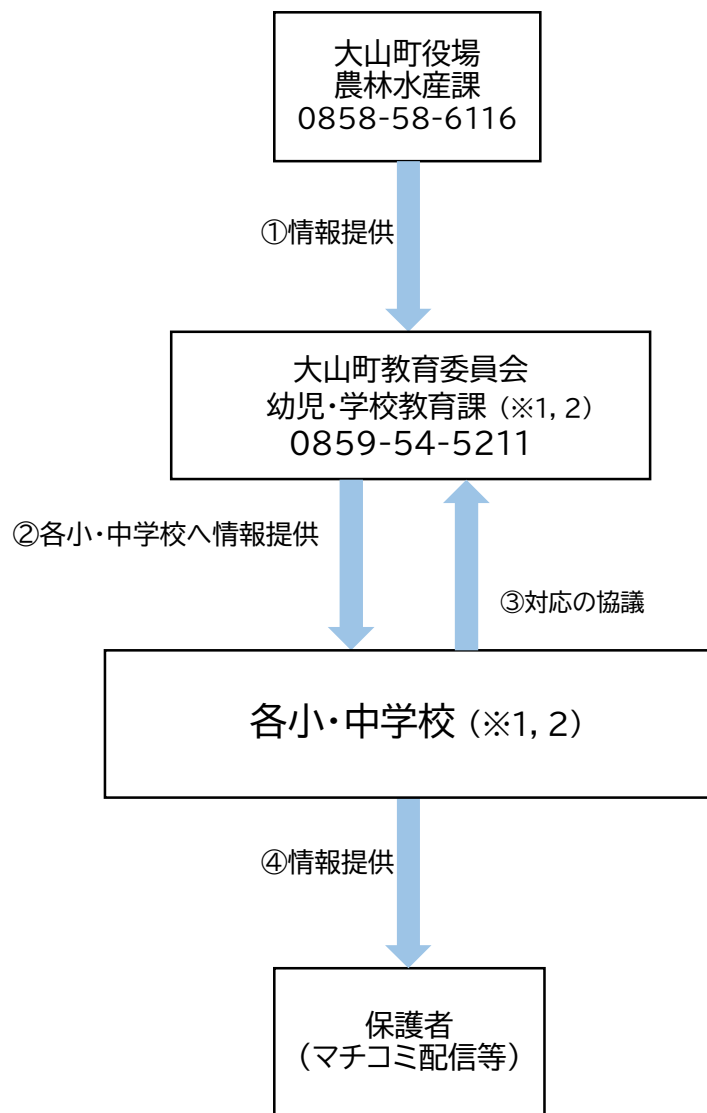


警察等への通報事項

- ☐ 出没日時
- ☐ 出没場所
- ☐ クマの情報(頭数、大きさ)
- ☐ クマの状況(移動方向等)
- ☐ その他(負傷者の有無、学校施設への被害状況等)

- ※1 休日の学校教育活動実施中(部活動等)にクマを目撃した場合には、当該学校は、児童生徒や教職員等の安全を確保し、警察等に通報したうえで、大山町教育委員会(①教育次長、②幼児・学校教育課参事、③幼児・学校教育課長の優先順位でいずれかの者)へ通報し、対応を協議する。
- ※2 サルその他の動物が出没した場合の対応についても、上記に準じて同様の対応を行う。

2.関係機関(大山町役場等)から出没情報が寄せられた場合



※1 放課後や休日にクマの出没情報が寄せられた場合には、大山町教育委員会（教育次長又は幼児・学校教育課）から、各学校へ情報提供を行い、対応を協議する。

※2 サルその他の動物が出没した場合の対応についても、上記に準じて同様の対応を行う。

<クマ出没時の対応(詳細)>

1.クマ出没時の緊急対応

項目	対応内容	担当者 (目安)	備考
認知・ 情報把握	・児童生徒、教職員、保護者、地域住民等からクマ等の目撃情報や被害情報を認知した場合、直ちに管理職に通報する。 ・通報事項は、以下のとおりとなるため、可能な限り正確に把握する。 □ 出没日時 □ 出没場所 □ クマの個体情報(頭数、大きさ等) □ クマの様子・行動(移動方向等) □ その他(負傷者の有無、施設等への被害状況等)	発見者、 全教職員	・情報管理は一元化し、憶測や噂の流布を防ぐ。
関係機関 への通報	・管理職は、直ちに警察、教育委員会等に、出没日時等の通報事項を通報する。 ・負傷者がいる場合は、最優先で消防(救急車)(119番)に通報する。	管理職	・教育委員会は、学校から通報を受けた場合、直ちに大山町役場農林水産課に通報する。
情報収集、 対応決定	・管理職は、学校の安全対策・対応について、教育委員会へ相談し、指導・助言を受け、適宜状況を報告する。 ・情報収集は、初期段階から終息まで、途中経過も含めてきめ細かく行い、最新の情報を踏まえて、逐次対応を決定・実行する。	管理職	・教育委員会は、関係機関から最新の情報を入手した場合、速やかに学校に情報提供を行う。
校内等の 安全確保	・児童生徒、教職員等の安全確保を最優先に、状況に応じて、直ちに以下の措置を講じる。 * 児童生徒の所在確認 * 屋内(教室等)への避難・待機 * 学校周辺の安全確認(可能な範囲で)	管理職、 全教職員	・緊急性の高い事項(生命の安全確保等)を最優先し、即時に実行する。

○緊急対応の際の注意事項

- ・負傷者がいる場合は、消防(救急車)(119番)への通報を最優先とする。
- ・最新の情報を収集し、状況に応じて臨機応変な対応に努める。
- ・クマの出没による影響が大山町内の広範囲にわたり危険性が排除できない場合には、教育委員会と該当校が協議し、複数校の臨時休業を検討する。
- ・報道対応(取材等)は、教育委員会で対応を一元化するため、報道機関から学校に問い合わせがあった場合には、学校は大山町教育委員会(幼児・学校教育課)に問い合わせるよう伝えるものとする。

2.登下校前後及び登下校時の判断と対応

- ・学校は、把握した情報に基づき、教育委員会の指導・助言を踏まえ、児童生徒等の安全確保に向けた対応を検討し、以下の措置等を講じる。

(1)登校前及び下校後の場合((2)に該当しない場合)

危険性判断	対応内容	具体的な措置例	保護者への連絡
学校周辺※1での出沒	・児童生徒等の安全確保を最優先に対応を検討する。(臨時休業等)	・学校周辺にクマが出沒し、安全が確保できないときは、臨時休業する。	・学校の対応方針、登校時の注意事項について連絡する。
学校周辺以外での出沒	・安全対策を強化し、登校させる。 ・通常の対応を継続しつつ、最新情報を注視する。	・状況に応じて保護者による送迎を依頼する。 ・教職員、見守り隊等による立哨・巡回・出迎えを強化する。	

※1 「学校周辺」は、学校から半径2キロ圏内及び通学路(児童生徒の自宅を含む。)を目安とする。(以下同じ。)

(2)登校時間帯中及び下校時間帯中の場合

危険性判断	対応内容	具体的な措置例	保護者への連絡
学校周辺での出沒	・教職員は自動車に乗車するなど、自らの安全を確保できる方法により、巡回を行う。(可能な範囲で) ※2 ・巡回中に登下校中の児童生徒を発見した場合、緊急的な避難の措置を行う。	・大山町役場、警察等と連携し、教職員等による巡回・見守りを実施する。(可能な範囲で)※2 ・登下校中の児童生徒を巡回中の車内に退避させたり、近隣の公共施設等に保護を依頼したりする。	・クマの出沒に関する情報提供を行い、学校の対応方針について連絡する。
学校周辺以外での出沒	・安全対策を強化し、登下校させる。 ・通常の対応を継続しつつ、最新情報を注視する。	・教職員、見守り隊等による立哨・巡回・出迎えを強化する。	・学校の対応方針について連絡する。

※2 通学路の巡回を実施する場合は、自動車等で巡回を行うなど、教職員の安全を確保できる範囲で実施する。

(3)在校中の場合(下校の際の対応)

危険性判断	対応内容	具体的な措置例	保護者への連絡
学校周辺での出沒	・保護者への引渡しによる下校とする。(安全面で困難な場合は校内待機)	・各校の引渡しのルールに基づき、保護者に児童生徒を直接引渡して下校させる。(安全面で困難な場合は校内待機)	・下校時刻及び下校方法等(引渡し等)について連絡する。
学校周辺以外での出沒	・安全対策を強化し、下校させる。 ・通常の対応を継続しつつ、最新情報を注視する。	・教職員、見守り隊等による立哨・巡回を強化する。	・学校の対応方針について連絡する。

<対策の例>

1.関係機関との連携、保護者への連絡体制の確認

- ・関係機関(警察、消防、大山町教育委員会等)との連絡体制図を確認しておく。
- ・有事(クマの痕跡や目撃情報等)の際にはパトロールを依頼する。
- ・保護者へ情報提供と注意喚起を行う。

2.有事(クマの痕跡や目撃情報等)の際の対応についての協議

○学校周辺にクマが出没し、登校までに危険性の排除が困難と判断される場合、臨時休業の検討を行う。

○危険性が排除され、児童生徒の安全を確保しつつ授業を実施する場合は、以下の点に留意する。

- ・1階出入口(玄関や窓等)の施錠箇所を確認する。
- ・校外学習の実施の可否を検討する。
- ・屋外での活動(外遊び、体育、部活動等)については、屋内での活動への切り替えや中止を検討する。
- ・登下校の方法(集団登下校、引き渡し、保護者による送迎等)を検討する。

3.児童生徒への安全指導

○自分の身を守り、クマを寄せ付けないための方法等について、日頃から指導を行う。

- ・なるべく一人での行動を避け、複数人で行動する。
- ・クマが近くにいるサイン(糞(ふん)、足跡等)を見つけたら、その場を離れ、大人に知らせる。
- ・クマに遭遇しても慌てずに対処する。(4. 及び5. を参照)

4.クマに遭遇した際の対処法について

- ・正面を向いたまま、ゆっくり後ずさりしながら距離をとってその場を離れる。クマの姿が見えなくなったら、直ちに避難する。(背中を向けて逃げたり、走って逃げたりすると、クマが追いかけてくるので、しないこと。)
- ・大声で叫んだり、石や棒を投げつけたりしない。(クマを興奮させないため。)
- ・近くに逃げ込める建物や車があれば、静かに避難する。

5.クマに襲われそうになった際の対処法について

- ・両手を首の後ろで組み、顔を伏せる姿勢をとる。(頭部や頸部への致命傷の防止及び顔面の負傷を避ける。)



防御姿勢の取り方

(環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室

「クマによる人身被害事例から- クマに出会わないためにできることや出会ってしまった時の対処について」より)

<クマ(ツキノワグマ)の習性>

- ・昼行性で、特に朝と夕方の薄暗い時間帯に最も活発に活動する。この時間帯は、登下校の時間帯に当たするため、注意が必要。
- ・農作物や実のなる庭木等に通うことを覚えたクマは、人に見つからないよう、夜に活動することもある。
- ・警戒心が強いいため、薄暗いところに出没しやすい。
- ・エサを求めて移動する。行動範囲が広い。
- ・嗅覚が鋭く、においにつられてくることがある。
- ・臆病だが、脅かすと怖がって襲ってくることがある。
- ・自然界にない大きな音、音楽を嫌う。

【春】冬眠から目覚める季節

- ・植物の新芽や山菜、タケノコを食べる。

【夏】子グマは独り立ち、大人グマは交尾の季節

- ・食べ物が少ないため、農作物等を狙って人里に出やすい。

【秋】冬眠に備えて脂肪を蓄える季節

- ・活発に活動する。

【冬】冬眠の季節

- ・秋に十分に脂肪を蓄えられない場合、冬眠せずに食べ物を探す。

<クマ(ツキノワグマ)が近くにいるサイン>

- ・糞(ふん)がある。色や形は食べ物によって変わる。
- ・足跡がある。(横幅約 10cm、指は 5 本)
- ・クマ剥ぎ(スギやヒノキの根元から約 2m の範囲で樹皮が剥がされた痕跡)がある。
- ・クマ棚(樹上に折った枝を集めたもの。クマが枝を折りながらドングリ等を食べた跡)がある。